

自治会まちづくりミーティング（要旨）

1. 自治会等の名称 蘇原北・蘇原南自治会連合会
2. 日 時 平成30年8月2日（木） 19時00分～20時40分
3. 場 所 蘇原コミュニティセンター
4. 出 席 者 自治会長 46名、市長、企画政策課長、観光交流課主幹

〈内容〉

○連合会長のあいさつ

○市長のあいさつ

○テーマ概要

テーマ①：「いちょう通り」の電線等地中化について

テーマ②：各務原市に新たなランドマークを ～権現山にロープウェー～

テーマ③：蘇原自然公園附近一帯の環境整備

テーマ④：防災基盤整備事業 消火器の整備及び追加配備

○提言による懇談

テーマ①：「いちょう通り」の電線等地中化について

〈駅前東自治会長〉

市内を東西に走る通称 16m道路「いちょう通り」は拡幅されてから 40 数年になると思いますが、基幹道路として大変市民に親しまれています。この「いちょう通り」は、約 6kmの道路で、南北の歩道部分にイチヨウの木が南側 499 本・北側 529 本の計 1,028 本が植栽されています。全国的に幹線道路のイチヨウ並木に限ってみれば、北海道大学のイチヨウ並木（400m・70 本）、明治神宮外苑（300m・156 本）、静岡県中区役所前の日大通り（600m・117 本）、神奈川県庁前日本大通り（400m・65 本）、大阪府の御堂筋（4km・972 本）が挙げられますが、幹線道路で約 6km・千本を超える各務原市のイチヨウ並木は大変珍しいと思います。

一方で、イチヨウの木の伸長・成長により数年前には、興亜町地内で電力線のショートが発生し、消防車が出動する事態が 2 回程ありました。その後、毎年電線等を上げたり、電線のショート防止カバーの取り付け工事をするなどの対策が講じられています。

このように毎年見込まれる電線の引き上げ工事や電線のショート防止カバーの取り付け工事など、これらから派生する交通渋滞の解放、今後予想される震災等に対する防災対策の観点からも、この電線の地中化は役立つのではないのでしょうか。それに加え街の美観の観点からも是非検討していただきたいと思います。

〈市長〉

これまでも、市民の皆様から様々なご意見を頂いています。具体的には、幹が太くなりすぎ、道路に出る時の左右の見通しが悪いため伐採すべきでは。電線に届くほど木が高いため電線以下の高さに芯止めをすべきでは。イチヨウの落ち葉が雨どいに詰まらないよう、早い時期に剪定すべきでは。逆に、黄金色に染まるイチヨウ並木を楽しみにしていたのに、剪定の時期が早すぎる

のでは。と剪定時期を早くすべき、遅くすべき、と言う相反する意見もあります。

電線地中化には、かなりの費用を伴うことや電線地中化工事を行う際に、イチョウの根が工事の支障となる場合には「イチョウの木自体を根元から伐採しなくてはならない」といった状況に陥る可能性もあります。一旦、根元から伐採をして新たに植栽をすることとなりますと、今のいちょう通りのイチョウ並木が維持できなくなるという状況になってしまいます。

もう一つには電線地中化における工事を行うには、既に埋まっている上下水道やガス管などとの兼ね合いであったり、また、電柱に関する権利関係については、非常に複雑であり関係者（電力会社、電話会社、ケーブルテレビなど）への合意を得る必要があります。以上のことから現在のところ、電線地中化は難しいと考えています

送電線（高圧線）を街路樹に接触しない高さに引き上げる工事や、配電線（低圧線）への防護カバーの設置は、ほぼ完了しています。今後も、一人でも多くの皆様に「いちょう通りは市民の自慢」と思っただけりよう、緑豊かで美しい街並みの保全に努めてまいります。

〈駅前中自治会長〉

いちょう通りのイチョウは、今は、その程度の大きさですが、高山市などへ行きますと大きなイチョウは幹が2m近くになりますが、あと50年後には、どのように、例えば上をカットして収めてしまうのか、植え替えるのか、イチョウの木は場所によっては、歩道が盛り上がっていますがイチョウの木を植え替える、別の木に植え替えると言うことは検討されていますか。

〈市長〉

この通りは「いちょう通り」と命名されていますので、できる限りいちょう通りで行きたいと思っております。市民の皆さんも自慢に思っただけりよう通りであります。ただ、植木の品種によっては、その大きさが更に大きくなるということで心配されているように、まだまだ成長しうる木であります。数年前に芯止めして自然との共生ということで見栄えの良いように、そして道路沿いにお住いの方々へのご負担が軽くなるようにと剪定の時期を変えたのが数年前です。

道路が盛り上がっているところは、いずれ植え替えをして歩道の路面工事の時期も来ようかと思っておりますが、保全をしながら、しっかりと管理をしていきたいと思っております。

テーマ②：各務原市に新たなランドマークを ～権現山にロープウェー～

〈六軒中第1自治会長〉

提言は「権現山にロープウェーカリフトを設置し、頂上へのアクセスを容易にし、濃尾平野の眺望を来客者に訴え、各務原市のランドマークの一つとしてアピールする」ということです。

各務原市の観光施設としては、川島地区にある河川環境楽園は、年間入場者数442万人あり、世界淡水魚園水族館アクア・トトなどからなり人気を集めています。また、稲羽地区にある岐阜かかみがはら航空宇宙博物館は、飛燕・ゼロ戦の実寸模型などの展示模型があり、本年3月24日のリニューアルオープン以来、20万人の来場者を記録しています。

このように市の南部地区には魅力ある観光施設があります。そこで、蘇原地区で北を見ると権現山があります。権現山は各務原アルプスの一角にあります。そしてアルプスといえば北アルプスの穂高岳に敷設されている新穂高ロープウェーがあります。また、岐阜市の金華山にもロープウェーがかかっています。権現山の山頂への登山方法は色々ありますが、伊吹の滝方面からのハイキングコースとしての蘇原自然公園遊歩道があり、持田方面からの急斜面の登山道もあります。

そこで、急傾斜がある持田からの登山道近辺にロープウェイを設置したら、その高低差を満喫できるとともに山頂へのアクセスが容易になるため多くの方が登山できると思います。

権現山は濃尾平野の最北端に位置し、名古屋市の高層タワー群や御嶽山、乗鞍岳などが望める絶景のロケーションを来場者に訴えることができるのではないかと思います。このようにロープウェイによる感動を来客者に与えるとともに、さらに集客を高めるため、麓駅の併設で道の駅をつくり来場者に楽しんでもらいたいと思います。

提言で訴えましたランドマークの意味である地上の目印、あるいは地域の目印、象徴となる建物となるべく設置開発されれば活気ある蘇原、元気ある各務原市の源となると思います。

〈市長〉

伊吹の滝から権現山への登山道は、各務原アルプスの「蘇原自然公園遊歩道」と呼ばれ、1年を通して、多くの市民の皆さんが登山を楽しんでいます。最近では低山ハイキングブームにより市外から訪れる方も多いため、市では「各務原アルプス山歩きマップ」を作成し、市内のアウトドア専門店などに設置しています。

さて、権現山にランドマークとしてロープウェイかリフトを設置してはどうかとのご提言ですが、本市周辺のロープウェイというと岐阜市の金華山ロープウェイがあります。岐阜観光索道(株)が当時の陸運局から架設免許を取得して、昭和30年に開通されたそうです。

設置に伴う費用を確認したところ、山頂と麓の2つの駅やロープ、ゴンドラなどの経費を含め現在建設すると、20~30億円は掛かるとのことでした。そして、権現山と金華山との違いになりますが、金華山の山頂には岐阜市の歴史的シンボルである岐阜城、リス村、展望レストランがあり、麓の岐阜公園内には、岐阜市歴史博物館や名和昆虫博物館など集客施設が複数あります。

金華山の例と比較した場合、やはりロープウェイの設置に伴う事業採算性の課題や、事業主体を検討する必要があります。そして、何よりも現在、この権現山に登られる方々は、どちらかという自然を楽しみたいという方が非常に多い状況であり、自然環境や景観の維持等々に配慮して、しっかり考えていく必要があります。

観光拠点の整備については、今後も各務原市の特徴を生かしながら進めていくべきと考えています。その観点から考えると、権現山を含めた各務原アルプスについては、今ある自然環境を大切に保ちながら、それを魅力として市内外の多くの皆さんに楽しんでいただきたいと思います。

テーマ③：蘇原自然公園附近一帯の環境整備

〈古市場町東自治会長〉

蘇原自然公園の入口は東側と西側にありますが、西と東に案内板がありません。「猫面魚 伊吹の滝へ 200m」という案内板はありますが、余りにも分かりにくいということです。

蘇原自然公園から高速道路の高架をくぐって伊吹の滝に行けることを知りませんでした。歩いて行くことによって発見できました。そういうことを初めて来た人が案内図を見ればキャッチでき、行き方が分かると思います。

蘇原自然公園に改めて入ってみますと、カワセミとか鳥の飛来でカメラマンが朝早くから駆けつけていました。そういうところの池の名前がどうしてないのかと思いました。もう一つ別の反対側のゾーンがありますが、どちらから行っても動けるようにしてほしいと思います。そして、伊吹の滝へ行くと、広場がありますが暗い感じです。西の方に遊具がありますが、隅っこにある

ので子どもたちも遊びにくいと思います。また、トイレは不潔感はあまりないのですが構造上、例えば友達同士、家族で使うには使いにくいと思います。ベンチについては、立地条件的に最高のロケーションだと思いますが、残念ながら全体の雰囲気が違うため、涼しさを味わうには難しいかと思います。

また、公園の反対側には池があり、私も子どもが小さい頃には一緒に連れて行っていました。当時は猫面魚ということで人が沢山いました。確かに顔の上の方が猫に見えるのかなあと、人面魚とも言っていたと思います。それだけ鯉が沢山泳いでいたということです。関係者の方にお話を聞いてみますと、昔は鯉が沢山いたけれど知らないうちに少なくなってきたと、色々なお悩みもあったそうですが、そういう意味で減った鯉を入れるかということ、今はそういう状況ではないと寂しそうに言われました。

そこで、まとめとして、①看板の設置をしてほしい。②池に名前を付けてほしい。必要であれば地域の人の声も吸収するのも良いと思いますが、不親切さを無くそうということです。③伊吹の滝の下の公園をもっと明るく清潔にできないものか。④主要道路から分かり易いエントランスができないか、入り口に看板を設置してほしいということです。

蘇原自然公園と伊吹の滝、権現山、3つの観光資源を合わせ技で一体感を持って育て、北の方を盛り上げ、結果としてリピーターが増える場所にするための工夫を凝らしていただきたいと思います。トータルデザイン作りに着手してほしい。そのためにも地域の声をどんどん吸い上げてほしいと思います。

〈市長〉

蘇原自然公園は、平成7年度にオープンした自然豊かな公園で、湧水を利用した小川や池ではスイレンをはじめとした水生植物が観察できます。ご説明のとおり、カワセミが見られることでも有名です。また、初春には梅の花が大変美しく咲き誇り、梅の名所としても知られています。市や市観光協会では、リーフレットに掲載したりウェブサイトで紹介するなどPRをしています。知名度はまだ十分とは言えないのが現状です。

トータルデザイン作りについては、あくまで自然公園ですので、これ以上手を加えないように現状を維持していこうと考えています。維持管理をお願いしている伊吹の滝発展会の皆様のご意見も伺いながら、まずは安心安全を第一に、樹木の伐採などを実施していきたいと考えています。トイレに関して、伊吹の滝の道路を隔てた南側と駐車場近くの2カ所に設置されています。それぞれ平成6年、平成9年に建設し、すでに20年以上経過しています。老朽化している部分もありますが、できる限り清潔に保ち、大切に維持管理していこうと考えています。

先程、公園を明るくといったご提言をいただきましたが、まずは、トイレの周辺を安全確保しなければいけないということで、数年前に照明をLEDに変更しました。公園に街路灯等を付けるということは自然公園ですので街灯によって、植物等への影響も懸念されますので、それを含めて検討したいと思います。

その他に公園内の施設の位置が、高速道路を隔てて北部と南部に分かれているため、公園内で行き来をしようとする場合には、高架下をくぐらなければいけない状況です。今後は、公園全体や各施設の位置などを案内する看板を設置して、訪れる皆さんが迷わないよう配慮したいと考えておりますので、ご理解のほどよろしく申し上げます。

〈駅前東自治会長〉

自然公園及び伊吹の滝の駐車スペースは、何台ありますか。駐車スペースが少ないと思います。

〈市長〉

自然公園の東側に 20 台、東側に 10 台位の駐車場があり、伊吹の滝の東側 30 台位の駐車スペースがあります。

〈駅前東自治会長〉

私も何度か行きましたが駐車スペースが少ないのではと思っています。10月に権現山でのイベントが開催されますが、ほとんどの方が車で来られるので、もっと駐車スペースを広げたらと思います。

〈観光交流課主幹〉

駐車スペースですが、3カ所に既存の駐車場があります。アスファルト舗装されたのが南部の東西に2カ所あり、伊吹の滝の側に砂利の駐車場で広めのところがありますが、一点としては、駐車場の拡張困難な原因としては、平地が無いということです。今現在、平地で駐車スペースの取れる場所を駐車場として整備しています。もう一点は、南から伊吹の滝に上がる道路については、駐車禁止区域ではないので、道路の端に止めて通行に邪魔にならないように駐車していただければと思います。

テーマ④：防災基盤整備事業 消火器の整備及び追加配備

〈六軒西緑自治会長〉

6月中旬に町内清掃がありました。その時、西消防署の大型はしご車による実施訓練展示を見せられました。実に11階のマンションの屋上に届く規模です。その後、消火器操作訓練を自治会の老若男女で実施しました。非常に熱心に行ってくださいました。その1週間前には、市の消防操法大会を見学しました。市の消防署に加えて全市の消防団によるその堂々たる装備、陣容、操法の巧みさに非常に安心を感じています。7月初旬には、不幸にも救急車の出動を仰ぐことになりましたが、指令室を見学の折に説明を受けた通り、携帯電話からの要請で北消防署から5分程度で現場到着し、迅速適切に行動いただきました。

今年度に入り、ある自治会長から「消火器の期限切れ、壊れたものがあるがどうして」という話を聞きました。それを機に周辺自治会で消火器の整備、配備状況の点検を行いました。市で設置いただいている消火器は使用期限切れ等々は無く、完全に緊急時に使用可能となっていました。

しかし、自治会設置の消火器については、消火器破損や使用期限切れ、格納箱の老朽化が見受けられます。そのため、まちづくり推進課の補助金申請の準備はしています。

市の話によりますと、消火器の設置は昭和54年に2,300本程とのことで、以後、市設置の消火器メンテナンスは完全に行われているようです。また、他自治会等の防災マップを見てみますと、造成された宅地等には設置されていない所が多々見受けられます。消火器も消防も使用されないのが最善ですが、何時かどこかで起きているのも事実です。ここ最近、火事による死亡が新聞の記事や、テレビのニュースでよく見ます。全国的ではありますが頻繁に火災が起き、その内容は独居老人や老人夫婦による住居世帯です。そういった世代の方がいますので、消火器の整備及び追加配備をお願いします。

〈市長〉

市が設置している街頭消火器は、昭和54年に設置しており、市内全体で約2,300本あります。

これらについては、消火器は 10 年、格納箱は 15 年のサイクルで更新しています。この街頭消火器を設置した昭和 54 年頃の状況を調べてみますと、消火栓の数が現在の半分以下であったということ、そういった背景の中、万が一の火災に備えて市が街頭消火器を設置しました。その後、市では着実に消防水利の整備を進めてきましたので、現在では、消火栓の数も昭和 54 年頃の倍以上となっています。

市内全部で消火栓は 3,389 あり、そのうち、地上式は 189、地下式は 3,200 となっています。地上式 189 のうち 180 が川島地区で、旧川島町の頃は各々の近いところに欲しいとのことから地上式の消火栓が多くあります。この 3,389 のうち蘇原地区には、消火栓と防火水槽を合わせて 653 カ所あり、消防水利の設置基準を満たしていますので、市行政としては、これら消防水利を活用した消火活動をしています。従いまして、街頭消火器の整備及び追加配備については、自助としての各ご家庭での設置や、地域における共助や、自主防災の観点から必要に応じて設置をご検討いただきたいと思います。

そのために自治会地域社会活動補助金というものにつきまして、自主防災で使用する消火器の購入につきましては、この補助を今年度より、防災資機材を積極的に整備される自治会には補助金上限額を 4 万円から 6 万円に引き上げています。

また、市の消火器の設置場所を見直したいとのご意見があれば設置場所の変更は可能ですので、その旨をご連絡ください。現時点で 70 近くの自治会に地域社会活動補助金を活用していただいています。そのうち、半分以上が消防ホースを購入し、消火器の購入は全体の 1 割弱といった状況であり、地域でも初期消火の方法として消火栓に消防ホースを繋ぐ方法が浸透していると思われます。そうしたことから市での消火器の追加配備ということは考えておりませんが、自助共助という観点から補助金を活用していただければと思います。

○行政の説明

- ・その先、その次へ。GO！NEXT

○その他の主な発言

〈駅前中自治会長〉

5 月 15 日号の広報紙にて下水道料金の値上げの説明がありまして、結論的には 32.2%の値上げ、2 段階に分けて引き上げることが記載されていました。コミュニティーバスの運用などでも公聴会を開かれたと思いますが、広く市民の皆さんに分かりやすくしてもらうためには、公聴会などをしていただけると助かると思います。

〈企画政策課長〉

確かにそのようなご意見もありますが、市民の代表者である議員の皆さんとお話をさせていただきながら進めていきたいということで、正式に引き上げを決める前に広報紙などを使いながら皆さんにもよく知っていただいた上で、決めていきたいと思っています。

○連合会長からまとめのことば

○市長からまとめのことば